

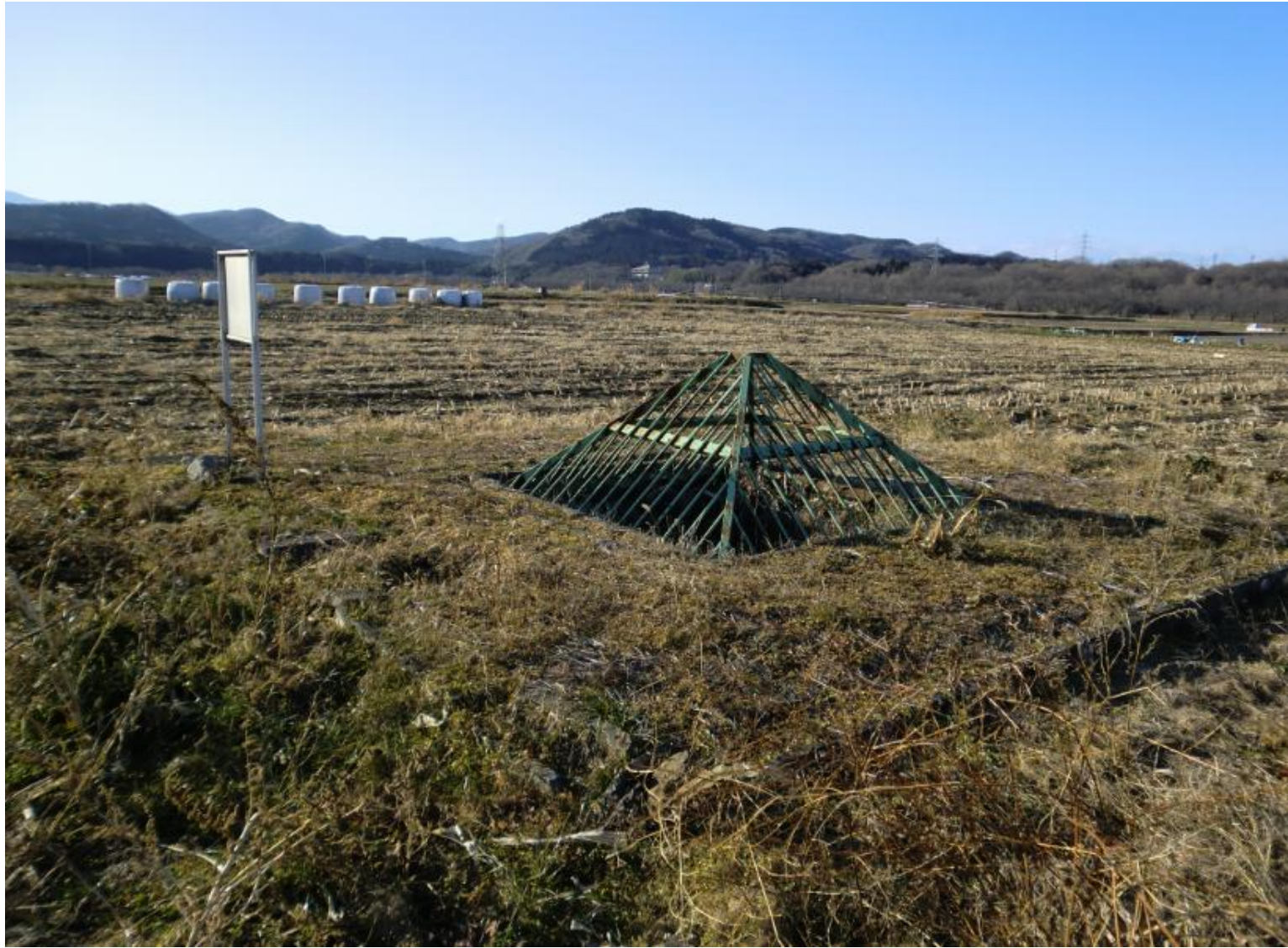
行司免遺跡(ぎょうじめんいせき)

正面に埼玉県比企郡嵐山町の田圃のど真ん中にある行司免遺跡の説明板と井戸の覆いが見える



前方の丘陵地帯には菅谷館跡がある





前方は調査隊の車



説明文の「ほ場整備」の「ほ場」とは「田圃(たんぼ)」のことをいう

嵐山町指定
史跡
行司免遺跡の井戸

指定 平成二年四月一日
所在 大字大蔵字行司免
時代 鎌倉時代末期

ここ嵐山南部耕地のほ場整備に伴って、昭和五八年一六〇年に発掘調査された行司免遺跡は、この井戸の周囲約五万平方メートルに広がっていました。
遺跡は、縄文時代、古墳時代、中世の複合集落でしたが、この井戸は中世の建物跡群とともに検出されました。井筒部の規模は、上部で二・〇、底部が一・〇八、深さは二・九メートルを測ります。井戸は、一旦素掘の掘り方を湧水面である岩盤面まで掘り、底に方形の木枠を組み、その上から玉石を小口積みにした円形の井戸側を構築するものです。旧地表面は、すでに失われており、井戸の上部構造は不明ですが出土遺物の年代から一三世紀末一四世紀前半頃使用されていたと考えられます。

行司免遺跡
の出土品

縄文土器、土師器など数千点に及ぶ出土品は、各時代の集落の様子を知るのに貴重な考古資料であり、現在町有形文化財に指定されている。

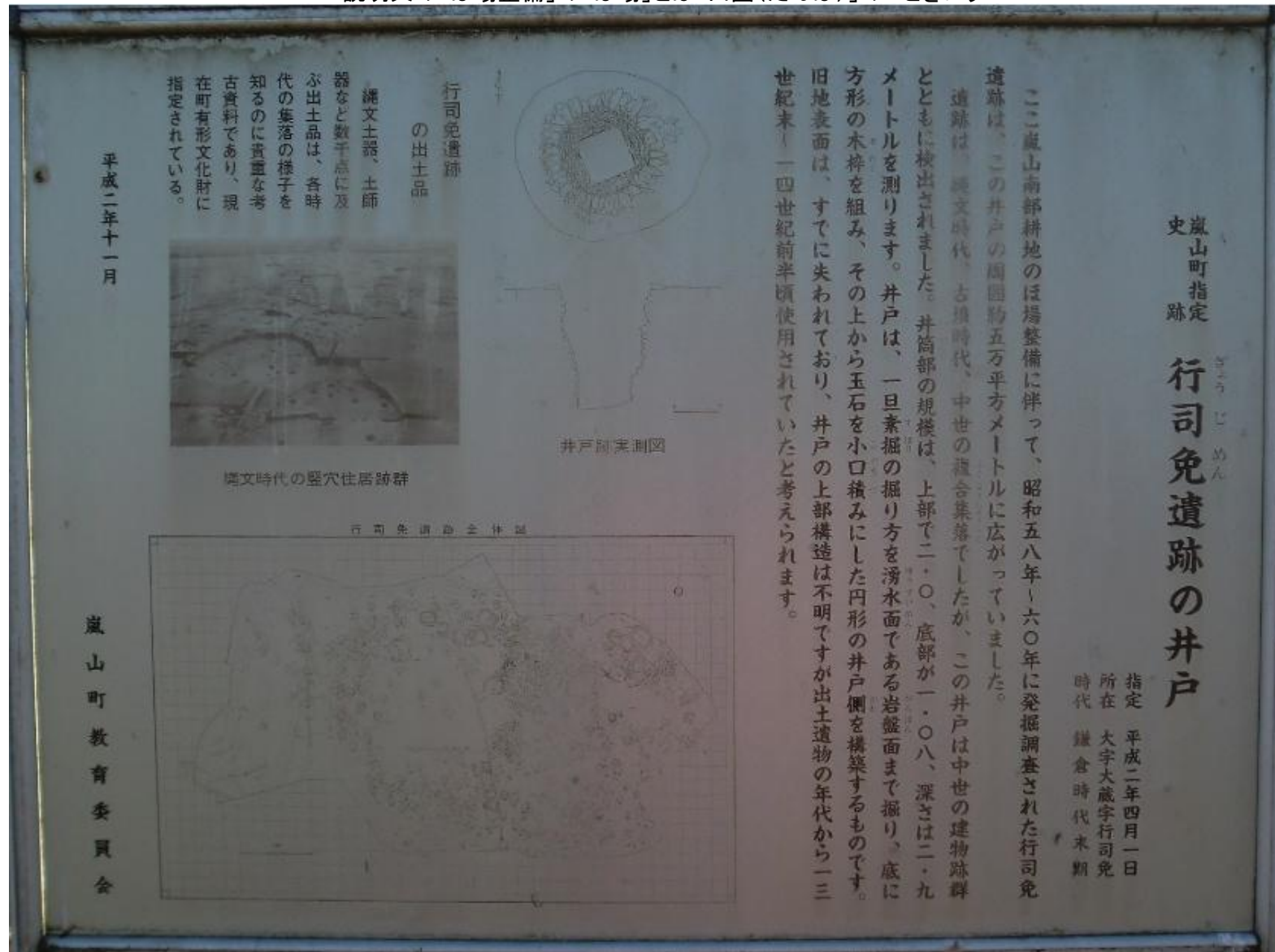
平成二年十一月

井戸実測図

縄文時代の竪穴住居跡群

行司免遺跡全体図

嵐山町教育委員会

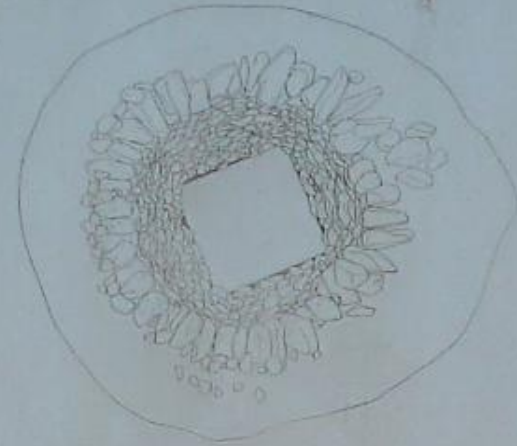


「ここ嵐山南部耕地のほ場整備に伴って(略)発掘調査された行司免遺跡は、この井戸の周囲五万平方メートルに広がっていました。遺跡は、縄文時代、古墳時代、中世の複合集落でしたが、この井戸は中世の建物遺跡群とともに検出されました。」と書かれている

行司免遺跡

の出土品

縄文土器、土師器など数千点に及ぶ出土品は、各時代の集落の様子を知るのに貴重な考古資料であり、現在町有形文化財に指定されている。

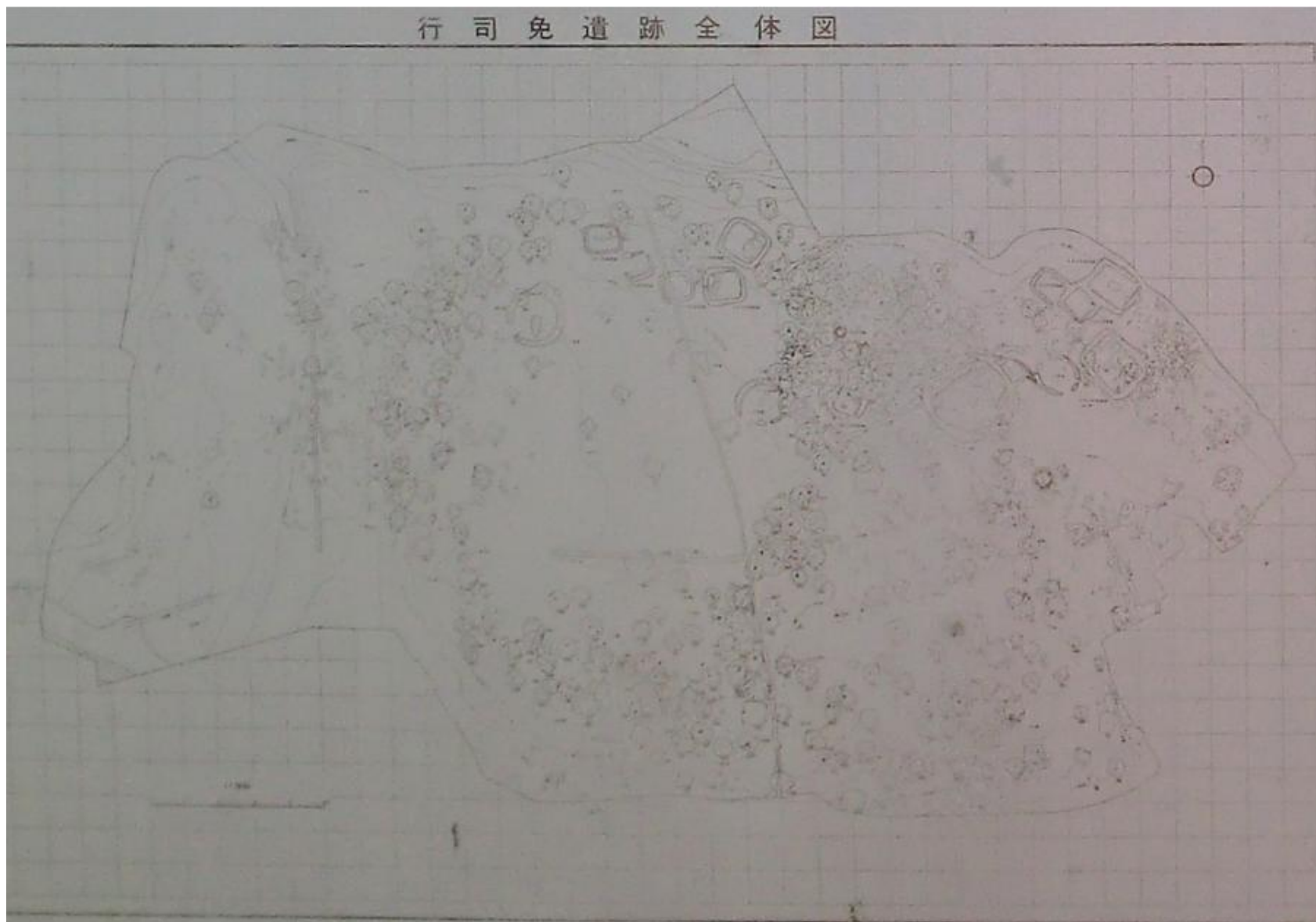


井戸跡実測図



縄文時代の竪穴住居跡群

行司免遺跡全体図

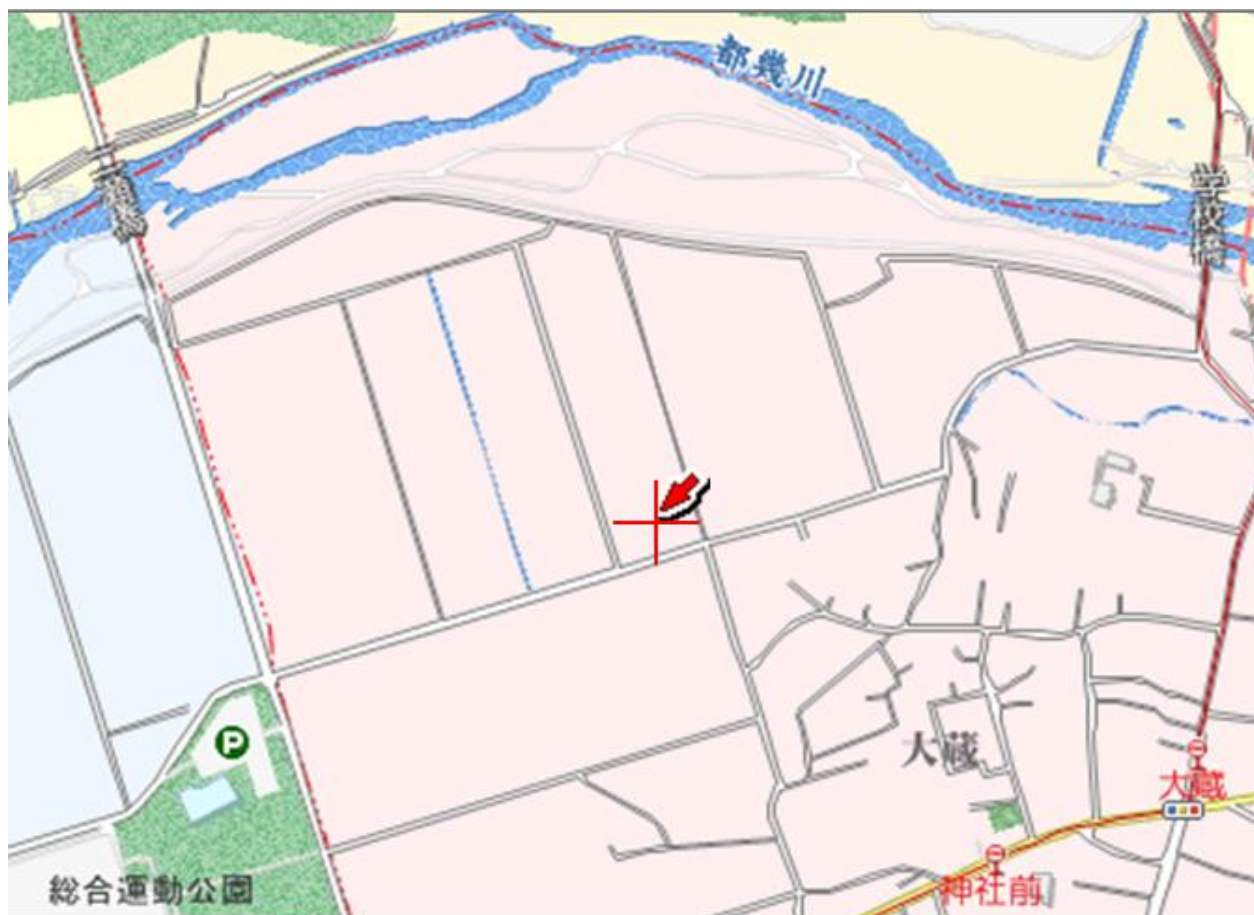




鎌倉時代末期の井戸







参考ホームページ

<http://hya34.sakura.ne.jp/hikigunn/ookura/gyousimenniseki.html>

<http://hya34.sakura.ne.jp/hikigunn/ookura/gyousimennsitodohinn.html>